

本報告書の概略

本報告書は、文部科学省の「障害学生受入促進研究委託事業」として、障害のある学生の受入促進や学生支援の充実に向けた高大連携の在り方について、日本学生支援機構（JASSO）及び宮城教育大学、筑波大学、東京大学、富山大学、同志社大学、関西学院大学、広島大学が平成 20 年度から 3 年間かけて調査研究した成果を整理し、7 つの章に取りまとめたものです。

第 1 章では、障害のある学生の進学状況の現在について、入試方法の選択・大学種別及び課程区分の選択・大学における専攻の選択という大学進学の手筋における 3 つの選択について各々整理することによって、その課題を述べています。

第 2 章では、第 1 章で述べた障害のある学生の進学の現況における大きな課題である「進学率向上」に焦点をあて、学生を送り出す側、受け入れる側のそれぞれの側面から進学率向上を図るうえでの現況や課題を述べています。

第 3 章では、第 2 章から進学を実現するうえでの不安を解消するためには、教職員、コーディネーター等の人的資源の充実、大学進学に関する情報の充実が不可欠であると考え、そのために必要な方策等を具体的な事例を交えつつ説明しています。

第 4 章では、高大連携における大きな課題の一つである大学入試における特別措置について現状を踏まえた問題点を捉え、その対処に取り組むべき 4 つの主体別にまとめて説明しています。

第 5 章では、第 4 章までに論じたような高大連携における問題点がある状況のもと、大学へ進学した障害のある学生に対して、大学が行なう入学後の修学支援に関する具体的な事例を障害種別に紹介しています。

第 6 章では、高等教育機関における障害学生支援の充実に必要な一元的な情報提供について、日本学生支援機構の業務の紹介なども踏まえて述べています。

第 7 章では、第 6 章までの内容を総括することにより、今後の課題や高大連携の在り方などを論じています。

巻末では、資料として、1. 海外の大学・機関が実施している障害学生支援の具体例（調査対象国：アメリカ、スウェーデン、韓国）、2. 平成 20 年度から 22 年度までの上記 7 大学の調査研究実績の概要、3. 日本学生支援機構が教育委員会を対象に実施したアンケート調査結果をそれぞれ掲載しました。

なお、本機構のホームページにおいて、より詳細で具体的な調査報告内容を平成 20 年度からの年度毎、機関・大学別に分けて掲載していますので、併せてご覧いただければ本報告書に対するご理解等が深まるものと考えています。

※参考：日本学生支援機構ホームページ該当箇所 URL

http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/koudairenkei.html